東中学校だより

令和５年３月 24 日 第１４号
文責　校長　下　村　　治

学校教育目標　○進んで学ぶ生徒　○心豊かな生徒　○身体をきたえる生徒

１年を振り返って、そして次年度に向けて

令和４年度も本日が最終日になりました。本年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、学年、学級閉鎖があり、また活動にも様々な制限がある生活が続きました。同時にこの状況下でも、工夫しながら日々の学校生活（教育）を続けていくという新たな年でもありました。

昨年度は中止となった新人戦も行われました。学校祭・合唱祭では、吹奏楽部の発表も再開し、全校で鑑賞できました。PTA バザーも復活しました。ほとんどの行事や活動も、感染対策を講じながら行うことができました。無論、陽性者になったり、濃厚接触者として長期間学校を休まなくてはいけない状況になり、つらい思いをした人も少なくなかったと思います。それでも、皆さんは前向きさを失わず、一つ一つの活動に一生懸命取り組んでいました。

今、感染症に対する制限も緩和されつつあり、社会に明るいきざしが見えつつあります。学校教育目標にもある「夢と希望に挑戦する」ことで、一人一人の明るい未来と、よりよい東中を創るために力を合わせて取り組んでいきましょう。

第５５回卒業式

３月１５日には第５５回卒業式を行い 101 名の生徒が本校を巣立っていきました。本年度は卒業生の保護者各家庭２名と、多くの来賓の方、そして在校生は生徒会本部役員と１・２年生の学級委員が参列しての実施となりました。また、校歌斉唱や卒業の歌の合唱も実施するなど、少しずつコロナ前の形に戻せたことをうれしく思っています。

前日の式場準備や校内清掃において、１・２年生の生徒たちは、実に積極的にそして心を込めて働いていました。式当日の在校生の参列は代表のみでしたが、生徒全員の力でつくりあげたものです。式は厳粛さと温かさのあるものになりました。関係したすべての皆様のおかげと感謝しております。

【卒業式　校長のことば（一部省略）】

------（略）------

さて、晴れの卒業の日を迎えた 101 名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今皆さんが手にしている卒業証書は、１学期に自分自身の手で漉いたものです。世界に一つしかない大切なものです。この卒業証書を胸に、東中学校の卒業生という誇りを持って新しい世界に旅立ってほしいと思います。

さて、３年前、それは突然起こりました。

皆さんが小学校６年生の３月、新型コロナウイルス感染症による全国一斉学校休校が起こりました。日本に学校いう制度ができて約 150 年、誰も経験したことのない大事件でした。3 か月にわたる休校期間中に、小学校の卒業式も中学校の入学式も過ぎていきました。満足な形で実施することはかないませんでした。だからこそ、本日こうして一人一人に卒業証書を手渡し、皆さんを送り出せることを本当にうれしく思っています。先ほど、本校の校歌を歌うことができました。この３年間のほとんど歌うことができませんでした。どんな思いで歌っていたでしょうか。私は胸がいっぱいになりました。このあとの卒業の歌の合唱も心のこもったものになることでしょう。

学校再開後も、日々の授業をはじめ、行事や、部活動にも様々な制限が加えられ、まさに皆さんの中学校生活は、新型コロナとともにあったといっても過言ではありません。

授業ではグループ活動がほとんどできませんでした。楽しいはずの給食も前を向いて会話もなく食べました。体育祭も様々な制約の中で行う必要があり、合唱祭は中止やマスクをしての実施でした。部活動では新人戦が

中止になったこともありました。

不安や不満はもちろんあったと思います。しかしそのような状況でも、皆さんは決してあきらめず、その時できることに精一杯取り組んでいました。社会全体に暗い雰囲気がある中、皆さんの頑張りは未来へ続く一筋の光だったと思います。

コロナ禍がもたらしたものは不安や制限ばかりではありませんでした。GIGA スクール構想といわれる、一人一台のタブレットを使っての学習の導入です。急激な環境の変化に社会では、特に大人は不安を抱かざるを得ませんでした。しかし、皆さんはすぐに順応し、それどころか瞬く間に使いこなすようになりました。AI の活用が進むこれからのソサエティ 5.0 の世界を生きていく皆さんに、力強い希望も感じています。

今やっと制限も緩和され、マスクも取った生活が送れるようになりつつあります。社会に明るさが戻ってきました。

今日を最後に、東中を巣立っていく皆さんに２つ伝えたいことがあります。

１つ目は私が日頃から話していることで、覚えている人もいると思いますが、「自分で選んだ道が最善の道」という考えを持ってほしいということです。人が生きていくことは常に選択の連続です。その一つ一つを皆さんは選んで進まなくてはなりません。自分で選んだ道を信じて進んでほしいのです。「あの時、別の道を選んでいれば」とか「あの時、こうしていれば」と過去にとらわれているばかりでは、決して良い人生は望めません。まずは、自分で決めたこれからの進路を最善のものと信じて進んでください。

２つ目は学校教育目標にもある「夢と希望に挑戦する」ことです。これは皆さん自身の明るい未来を築く原動力です。

私の好きな歌に Mr.Children の「終わりなき旅」というものがあります。昔の曲なので保護者の皆様のほうがなじみがあるかもしれません。その中にこんな歌詞があります。

「閉ざされたドアの向こうに 新しい何かが待っていて　　きっと きっとって 僕を動かしてる
いいことばかりでは無いさ でも次の扉をノックしたい　もっと大きなはずの自分を探す 終わりなき旅」と

皆さんも夢と希望をもって、自分の前に広がる世界のドア開けて進んでほしいと思います。それには少しの勇気も必要でしょう。でもそこには今よりもっと大きな素晴らしい世界が待っているはずです。新しい世界での活躍を心から期待しています。

------- （略） --------

結びに、卒業生の皆さんの明るい未来と、本日ご臨席賜りましたすべての皆様のご健勝とご多幸を心からお祈りし、式のことばといたします。

令和５年３月１５日　東中学校長　下村　治

４月からの新型コロナウイルス感染症の学校における対応について

３月１７日に、文部科学省から「新学期以降の学校におけるマスク着用の考え方の見直し等について（通知）」が出されました。これには、４月１日以降の新学期におけるマスクの着用の考え方について、「学校教育活動の実施に当たっては、マスクの着用を求めないことを基本とする」等とされているところです。本校でもこの基本的な考え方にしたがって教育活動を進めてまいります。

〇生徒及び教職員については、学校教育活動に当たって、マスクの着用を求めないことを基本とします。

〇校外学習等で混雑した電車やバスを利用する場合や、医療機関や高齢者施設等を訪問する場合など、マスクの着用が推奨される場面においては、生徒及び教職員についても、着用を推奨します。

〇生徒の間でのマスクの着用の有無による差別・偏見等がないよう適切に指導をしていきます。

〇 学校教育活動の中で、「感染リスクが比較的高い学習活動」の実施に当たっては、活動の場面に応じて、距離の確保や、換気の徹底等、感染症対策を講じていきます。

〇咳やくしゃみの際には、咳エチケットを行うよう生徒に指導していきます。